

不用之將軍家、御三家、御三卿、喜連川ハ、陸尺黒絹羽折ヲ著シ、脇差ヲ佩ブ、乗物專ラ四夫ニテ昇ク、小身ハ三夫、或ニテモ昇之、高貴ハ十餘人、或ハ七八五六人ヲ供シ、四夫輪替シテ昇ク、餘夫ヲ手代リトス、權門駕籠、四夫留守居カゴ三四夫、獻物カゴ二夫、ハウセンジ以下並ニ二夫、蓋三四夫ヲ供シテ、二夫宛輪替シテ昇モ有之、市中往來留守居カゴ以上、大略息杖ヲ用ヒズ、以下ハ用之、蓋旅行ニハ高貴ノ乗物ト雖ドモ、息杖ヲ用フ、又ハウセンジ以上ハ、息杖木、アンボツ木、或ハ竹、其以下ハ竹杖也。

江戸吉原及其他遊ニ通フ徒、殊ニ急速ヲ欲ス者ハ、四ツ手ニ四夫、或ハ三夫ヲ供シ、二夫ツ、輪替シ昇ク、二夫ヲサシト云、三四夫ヲ三枚四枚ト云、如此急速ヲ欲スル、地廣ク路遠キ故也、此時ハカケゴエシテ大股ニ走ル、駕中動搖甚シ、尾ノ名古ヤニモ、熱田驛遊女ニ通フ者ヲ乗スルカゴアリ、其疾コト江戸四ツ手ニ下ラズト雖ドモ、小股ニテ走ル故ニ動搖セズ、

〔享保集成絲綸錄 四十五〕寶永元申年八月

一町中駕籠昇候もの、常に日用と紛候間、向後駕籠候者之分、日用座カ札を取置可申候、但札賃は差出し申間敷候、尤駕籠昇相止候は、右之札、日用座へ可相返候、總而借駕籠旅人は各別、其外極老之者、病人、或女、又は小兒、此外一切不可借旨、最前相觸候所、近來は猥に乘候由相聞、不届候條、此已後、若定之外之者、乘せ候は、駕籠昇候もの、曲事に可申付候、
右之趣相守之、名主并家主、急度可申付候、以上、

八月

寶永四亥年八月

一町中借駕籠昇候者共、只今迄、日用札不取候故、日用之もの紛敷候、向後借シ駕籠昇候もの共も、日用座へ參定之通札錢を出し、日用札請取可申候、若相背者有之ば、曲事可申付候、此段可相觸